

平成23年3月10日

陸前高田市議会議長 西 條 廣 様

陸前高田市議会新志会

会長 菅 野 稔

政務調査活動概要報告書

政務調査費に関する取扱い要綱第6条第2項の規定により、平成22年度政務調査活動報告をいたします。

記

1 研究研修事業(研修視察)

(1) 実施日 平成22年4月15日(木)～4月16日(金)

(2) 場 所 千葉県幕張市

(3) 参加者 菅野広紀・菅原 悟

(4) 行 程

4月15日(木) 陸前高田市～一関駅～東京駅～幕張駅

4月16日(金) 幕張駅～東京駅～一ノ関駅～陸前高田市

(5) 研修項目

平成22年度 第1回「市町村議会議員特別セミナー」

①「これからの地方自治と議会の役割」

②「掘り起こした!秩父の宝」

③「日本政治の展望」

④「リーダーシップ温故知新」

(6) 研修概要

4月15日(木)

13時30分～15時00分

「これからの地方自治と議会の役割」 東京大学名誉教授 大森彌氏

15時15分～16時45分

「掘り起こした!秩父の宝」 (株)和銅鉾泉旅館代表取締役 町田啓介氏

4月16日(金)

09時30分～10時50分

「日本政治の展望」政治評論家 毎日新聞客員編集委員 岩見隆夫氏
11時05分～12時25分

「リーダーシップ温故知新」(株)松下政経塾理事長 佐野尚見氏
最新の情報をもとにそれぞれの分野でご活躍している方々からご講演をいただき大変勉強になり、今後も機会あるごとに出席したいと思います。

2 研究研修事業(研修視察)

- (1) 実施日 平成22年10月25日(月)～10月28日(木)
(2) 場 所 山口県美祢市、萩市、甘日市市、高松市丸亀町商店街
(3) 参加者 会長 菅野 稔、幹事長 千田勝治、事務局 菅原 悟、
会員 菅野広紀、会員 伊藤明彦 以上5名

(4) 行 程

10月25日(月) 陸前高田 8:30 発～(自家用車)～いわて花巻空港 11:55 発～
伊丹空港着 13:25 着～(タクシー)～新大阪駅 14:45 発～新山口駅
16:38 着～ホテル 15:30 着(宿泊:ホテルニュータナカ)

※ 新山口駅から岡山駅まではレンタカーによる移動。

10月26日(火) ホテル 8:30 発～子郡 IC～美祢 IC～「美祢市役所(ふるさと創
造未来交付金ほか)視察研修 09:30～10:30」～昼食～「萩市役所(萩
まちじゅう博物館構想ほか)視察研修 15:00～16:00」～民宿 18:00
着(宿泊:漁家民宿遊縁)

10月27日(水) 民宿 8:30 発～徳山東 IC～甘日市 IC～昼食～宮島口 11:55 発～
(フェリー)～宮島観光案内所「甘日市市視察研修(宮島観光案内
所リニューアル事業) 13:15～14:00」～(フェリー)～宮島口～ホ
テル 18:00(宿泊:ホテル JAL シティ)

10月28日(木) ホテル 7:30 出発～広島 IC～倉敷 IC～瀬戸大橋～坂出 IC～「丸
亀町商店街 A 街区市街地再開発事業視察 10:30～11:00」～昼食～岡
山 IC～岡山駅 14:30 発～新大阪駅 15:21 着～(バス)～伊丹空港
17:00 発～いわて花巻空港 18:25 着～陸前高田市 20:40 着

(5) 視察項目

- ①山口県美祢市役所

- ・ふるさと創造未来交付金について
- ・美祢市空き家等情報バンク制度について
- ・ふるさと美祢応援寄付金「ふるさと納税」について

②山口県萩市

- ・萩まちじゅう博物館構想について
- ・景観計画策定と屋外広告物条例について

③広島県甘日市市

- ・宮島観光案内所リニューアル事業について

④丸亀商店街A街区市街地再開発事業について（香川県高松市）

(6) 視察概要

10月26日、山口県美祢市役所3階会議室において、研修をしました。

美祢市は、平成20年3月21日、美祢市、美祢郡美東町、秋芳町が合併して新「美祢市」が誕生しました。南部地域は、JR美祢駅を中心に商業・鉄鋼業や都市機能が集積し、中心市街地を形成。石灰岩、大理石といった地下資源に恵まれ、露天掘りによる石灰石の採掘が行われ、中部地域は、日本最大のカルスト台地「秋吉台」や東洋最大規模の鍾乳洞「秋芳洞」を擁します。平成15年5月には全国初のPFI方式により設置運営される矯正施設「美祢社会復帰促進センター」が開庁。今後は文化交流・観光振興の拠点づくりを推進し、「交流拠点都市～観光立市～」の建設に向けて、魅力あるまちづくりに努めています。

美祢市では、ふるさと創造未来交付金について、美祢市空き家等情報バンク制度について及びふるさと美祢応援寄付金について、研修しました。

ふるさと創造未来交付金事業は、未来に向けたふるさと美祢市創造のため、地域の活性化を図るため、地域の均衡ある発展に資する事業を実施する団体に対し、予算の範囲内で交付金を交付しています。

広く市内から事業実施団体を募集し、市長の諮問を受けた地域審議会により審議・選定等が行われ、交付団体が決定されます。対象事業としては、地域の活性化・地域の均衡ある発展に資するもので、ハード事業・ソフト事業のどちらにも活用できますが、市民に夢・希望・誇りをもたらす、未来に向けたふるさと創造につながるものと判断できるもの、不特定多数の者、地域もしくは市全体の利益につながる公益的なもの等の基準を満たす必要があります。また対象団体も、「市民が主体と

なって組織し、運営をしている」「市内を活動の拠点とし、構成員が3人以上いる」等の基準が設けられています。

平成21年度の採択件数は21件、交付決定額23,474千円となっています。その事業内容は、移送ボランティアサービスの範囲拡大、桜の管理(天狗巣病対策等)、ため池周辺の枯松伐採、遊歩道整備とプラスチック模擬柵の設置、伝統文化の育成と地域行事の活性化等、様々な事業に活用されています。それぞれ地域の活性化に向け、事業興しに頑張っている姿がみられました。

美祢市では、ふるさと「美祢市」への定住を促進するため、「空き家情報バンク制度」を運営し、市内に点在する空き家情報の収集・提供に力を注いでいます。活用の流れとしては、空き家等所有者の申請により空き家等の登録してもらい、ホームページ等によりその情報を発信し、利用希望者があった場合、市を通して物件所有者へ希望者の情報等を通知します。空き家等の所有者と利用希望者の交渉が整った場合は、当事者間で契約締結します。市は、賃貸借契約、売買契約には関与しないこととしています。

ふるさと美祢応援寄付金(ふるさと納税)は、ふるさと美祢市を応援したい、ふるさと美祢市の発展に貢献したいという美祢市への思いをかたちにされる寄付金です。寄付金は美祢市の将来の発展を目指し、明るい未来を築くために、その原動力となる「ひとづくり」、住みよい環境を目指し「美しい自然を守る活動」などに活用します。美祢市からのお礼として、1万円以上の寄付をしていただいた方には、美祢ふるさと便として美祢市の特産品をプレゼントしています。

美祢市役所では、3項目について研修しました。人口は当市より約4千人多い町ではありますが、観光をメインに活発に市の活性化に向け活動されている印象を受けました。

次に、萩市役所にて「萩まちじゅう博物館構想」及び「景観計画並びに屋外広告物制度」について視察研修を行いました。

萩市は平成17年3月6日、旧萩市、田万川町、須佐町、川上村、むつみ村、旭村、福栄村1市2町4村が合併し、新「萩市」となりました。市域共通の地域特性である豊かな「自然」、すばらしい「歴史」と「文化」を尊重し、後世に伝えていこうという市民の意思と、「健やかでうるおいのあるまちづくり」を望む声を尊重し、まちづくりの将来像を「自然と歴史、文化に抱かれた健やかでうるおいのあるまち」と表現しています。

萩市には、毛利藩政期 260 年間に形成された城下町のたたずまいや町割りなどが今なお残り、「江戸時代の地図がそのまま使えるまち」となっています。萩の城跡や武家屋敷、町家、維新の志士の旧宅、寺院等は、それぞれが貴重な文化財であるとともに、城下町全体がかけがえのない姿で残されており、近世そのままの空間が市民によって住みこなされていることこそ、優れた都市遺産であるといわれています。昭和 30 年代から始まった高度成長という大きなうねりのなかで、全国の歴史的集落や町並みが失われた時代において、萩市はいち早くその保存に取り組んできました。しかしながら、萩を物語る「土堀から顔を出す夏みかん」「古い町家が続く町並み」「萩の歴史を見守ってきた松の古木」といった代表的な景観が、都市化の波により徐々に失われつつあるのも事実。

萩市は、まちじゅうを博物館としてとらえ、この都市遺産を大切に保存・活用し、萩にしかない宝物を次世代に確実に伝え「萩に住んでよかった」「萩を終の住処にして良かった」と日々実感できるような魅力があるまちづくりに努めるとともに、萩を訪れた人々に萩の良さや歴史を、愛着と誇りを持って伝えることで「萩は、日本の心のふるさと」と思われるような、そんなおもてなしを推進する「萩まちじゅう博物館」という新しいまちづくりの取組を開始しました。

平成 15 年 6 月 5 日に商工会議所や観光協会など団体の代表者や学識経験者、地域の代表者ら 30 人からなる「萩まちじゅう博物館整備検討委員会」を組織し、検討を重ねました。会議は現地視察を含め全体で 19 回にも及び、さまざまな議論を経て「萩まちじゅう博物館構想」が取りまとめられました。

そのほか、萩市景観計画や屋外広告物制度等を研修いたしました。

10 月 27 日は、甘日市市にて宮島観光案内所リニューアル事業について研修をいたしました。

世界遺産を有する国際的観光地である宮島は、国の外客誘致施策である「ビジット・ジャパン・キャンペーン」の展開等により、中国地方における外国人誘客の拠点として外国人来島者一層増加することが予想されたことから、観光施策の基盤となる観光案内所等の施設整備に取り組むこととしました。

平成 17 年 8 月「甘日市市観光まちづくり懇話会」から観光地宮島のグレードアップ施策の一つとして「観光案内所のインフォメーション機能の充実・快適なトイレの整備」について提案がなされたことから、国内外から多くの観光客が訪れる宮島の玄関である「宮島栈橋旅客ターミナル」について、トイレ・案内カウンターを

バリアフリー化及び国際化対応にすることによって、高齢者・外国人等が快適にかつ安心して散策しながら観光できる空間形成を図るために整備を行いました。

主な整備の内容は、バリアフリースイールの整備、国際化に対応したインフォメーションの整備、高齢者及び聴覚障害者にも対応できるハイビジョン案内施設の整備などです。ハイビジョンでは、緊急情報として、公共交通機関の運行状況、船舶の運行中止、その他防災情報も文字情報として提供することができます。

事業効果としては、国際的な観光地・宮島を訪れる国内外からの観光客が快適に滞在・周遊できる環境を提供しているとのことで、観光地の玄関口の大事さを考えさせられました。

10月28日には丸亀商店街A街区市街地再開発事業について視察しました。高松丸亀町商店街振興組合の説明資料をいただき、商店街の町並みや施設を見学し、実りある視察研修でありました。

この視察を糧にそれぞれ議員が陸前高田市の活性化のための議会活動を期待し、視察報告とさせていただきます。